

ゴール14：持続可能な開発のための海洋と海洋資源の保全と持続可能な利用

1. 現状認識

(1) 海洋と海洋資源の保全と持続可能な利用がなぜ重要なのか

- ✓ 赤潮の発生や微細なプラスチックゴミの検出等、海洋の汚染が地球規模で拡大している。
- ✓ 20世紀末の数十年で世界のサンゴ礁の約20%が失われ、現存のサンゴ礁の60%以上が絶滅の脅威にさらされている¹。
- ✓ 水産資源の3割弱が持続不可能な利用と評価されており、海洋での漁獲量は減少傾向にある²。
- ✓ 地球表面の71%を占める海洋とその資源は人類共有の財産かつ生存基盤であり、上記の危機的状況に対応し、その保全と持続的利用を実現するためには、海洋という場（エリア／スペース）を対象にして、そこで発生する諸問題について全関係者が総合的・一体的に取り組む必要性があるとの認識が深まりつつある。

(2) 我が国の取り組み

- ✓ 海洋の汚染防止、生態系・生物多様性の保全、水産資源の産卵・成育場の保全、種苗の生産放流と漁業の管理に取り組んでおり、海洋の開発・利用・保全が総合的かつ一体的に行われている。また、そのアプローチは古くからの海との関わりとそこで培われた経験がベースとなっており、循環型社会、人と自然の共生、行政と漁民による共同管理といった特徴を有している。
- ✓ 海洋汚染では、1971年に「海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律（海洋汚染防止法）」が施行され、2016年のG7・伊勢志摩サミットでは、「3Rに関する取り組みが陸域を発生源とする海洋ごみ、特にプラスチックの発生抑制及び削減に寄与することも認識しつつ、海洋ゴミに対処する」との合意がなされた。
- ✓ 生態系保全では、「生物多様性条約愛知目標」の採択を受けて、「海洋生物多様性保全戦略」を策定した。同戦略に基づき森・川・海の流域の統合的な管理を展開するとともに、里海と呼ばれる地域住民の伝統的な沿岸生態系の管理を

¹生物多様性国家戦略 2010-2020（IUCN）、ミレニアム生態系評価（2005年）、WRI 報告書（2011年）、IUCN レッドリスト 2016

² FAO 水産白書 2016

評価し、地域参画による取り組みを推進している。さらに、生物多様性の保全と管理強化のために海洋保護区の指定を進め、また、水産資源の増殖の観点から、種苗の放流や産卵・成育場所の保全・整備も行っている。

- ✓ 我が国の水産資源は、沖合域では許可制度及び漁獲量規制により、また、沿岸域では漁業協同組合に付与される漁業を行う権利により管理されている。密漁等の違法操業への対応では、漁業監督官が海上保安官及び警察官と連携して取締り任務に当たるとともに、漁業協同組合も漁場の監視や違反通報を行っている。カツオ・マグロといった高度回遊魚や絶滅の恐れのある魚種については、国際的な資源管理機関において管理規則の策定及び適用で主導的な役割を果たしている。

(3) JICA の強み

- ✓ 447 万 km² という世界 6 位の管轄海域（領海と排他的経済水域）を有する海洋国として、また、海面漁獲量世界 6 位、水産物輸入量世界 1 位の水産国として、さらに過去水俣病に象徴される水質汚染公害を克服した環境先進国として、我が国は海洋と海洋資源の保全と持続的利用のための国際協力を主導できる立場にある。
- ✓ 海洋汚染の防止では、廃棄物管理及び下水道・水質汚濁対策の分野で環境管理行政能力の強化、組織及び人材育成など包括的な体制強化を目指し、技術協力と資金協力を有機的に組み合わせてハード・ソフトの両面から相手国の取り組みを支援してきた経験と実績がある。政策・制度レベルから、現場レベルの環境管理事業改善、施設整備及び実施体制強化まで、中央政府から地方コミュニティまで、オーナーシップを重視しながら相手国の自立に向けた支援を行ってきた強みがある。特に、日本は高度成長期に深刻化した公害問題を克服した経験があり、この経験・知見を活用した、効果的な支援アプローチが可能である。
- ✓ 生態系の保全では、自然環境の保全とその生態系サービスに依存した生活を営む地域住民の生計向上の両立に向け、政策・制度提言、保護区等での協働管理体制の構築、人材育成のためのキャパシティーディベロップメントの実施など、包括的な協力を実施している点が強みである。沿岸域生態系においては、マングローブの保全と持続的利用、植林による生態系の回復に必要な能力構築、気候変動に脆弱な島嶼国におけるサンゴ礁生態系の気候変動への適応と緩和対策、沿岸域生態系の統合的保全管理に関する援助を実施してきた。
- ✓ 我が国の漁業は、欧米と異なり、開発途上国と類似の特徴を有しており、開発援助に活用できる知見が豊富という強みがある。それは、小規模沿岸漁業者が

多く、多様な魚種が多様な漁法で漁獲され、水揚げ場が分散しているという産業構造と資源構成であり、同時に、資源管理と漁村振興の方向を大きく左右する要因でもある。JICA はこれら知見の活用により、現地の状況に適した水産資源の持続的利用の事例を形成してきており、事業を通じたナレッジも蓄積されつつある。さらに、同事業の実施を通じて形成された内外の組織や人材とのネットワークも、今後の協力の展開において大きな強みになると考えられる。

2. 注力するターゲット

ゴール14は7つのターゲットと3つの実施手段から構成されている。JICAは協力の効果、効率性と独自の強みの活用の観点から以下の分野に注力する。

海洋汚染の防止の取り組みとして

【14.1】2025年までに海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し大幅に削減する。

生態系の保全の取り組みとして

【14.2】2020年までに海洋及び沿岸の生態系に関する重大な悪影響を回避ために、強靱性（レジリエンス）の強化などによる持続的な管理と保護を行い、健全で生産的な海洋を実現するため、海洋及び沿岸の生態系回復ため取り組みを行う。

【14.5】2020年までに、国内法及び国際法に則り、最大限入手可能な科学情報に基づいて少なくとも沿岸域及び海の10%を保全する。

水産資源の管理の取り組みとして

【14.4】水産資源を実現可能な最短期間で少なくとも各資源の生物学的特性によって定められる最大持続生産量のレベルまで回復させるため、2020年までに、漁獲を効果的に規制し、過剰漁業や違法・無報告規制漁業及び破壊的な漁業慣行を終了し、科学的な管理計画を実施する。

経済便益の増大及び零細漁業の振興の取り組みとして

【14.7】2030年までに、漁業、水産養殖及び観光の持続可能な管理を通じ小島嶼開発途上国及び後開発途上国の海洋資源持続的な利用による経済便益を増大させる。

【14.8】小規模・沿岸零細漁業者に、海洋資源及び市場へのアクセスを提供する。

3. 実現のための重点的取り組み

(1) 海洋汚染の防止

- ✓ 陸域における環境保護・改善において、水質汚染対策・下水道整備や廃棄物管理

を強化する（ゴール6及びゴール12にも貢献）。

- ✓ 具体的には、法規制の執行に関する法制度整備、組織強化と人材育成、汚染対策施設（下水道処理施設、廃棄物処理施設、廃棄物最終処分場等）の整備とその運営維持管理能力強化支援を一体的に展開する。
- ✓ その際には、日本の公害対策等の経験を踏まえ、都市の行政、企業、住民が相互に牽制しつつも連携する仕組みを開発途上国の実情に合わせて構築する。
- ✓ また、日本の地方自治体・民間企業と連携を図り、日本の技術やノウハウを活用する。

（2）生態系の保全

- ✓ 沿岸域・海洋域の生物多様性の保全と生態系サービスの持続的利用の両立に向け、海洋保護区管理、サンゴ礁を含む脆弱な生態系保全、水産資源等生態系サービスの持続的利用による地域住民の生計向上のための政策・制度提言、保護区等での協働管理体制の構築、人材育成のためのキャパシティディベロップメント等、包括的な協力を展開する。
- ✓ サンゴ礁、海草藻場、マングローブの保全と回復については、ブルーカーボンの貯留・隔離機能を有し気候変動の緩和策にも重要である点にも留意する。

（3）水産資源の管理と経済便益の増大及び零細漁業の振興

- ✓ 沿岸住民の生計に直接影響する「沿岸漁業の管理」を最優先とする。
- ✓ 水産資源の産卵、成長に重要な干潟／湿地・藻場・サンゴ礁等の「沿岸の生態系」について、漁民参加による保全活動を推進する。
- ✓ 水産行政の人材及び財政の制約に留意し、漁民の主体的な参加を促す「行政と漁民による共同管理」を推進する。
- ✓ 漁獲規制等による収入減少リスクにも配慮し、「代替生計活動」を適切に組み合わせ、漁民の参加と管理の持続性を高める。
- ✓ 我が国の政策及び国際的な動向を踏まえ、新たな取り組みとして、「重要な地域水産資源の評価」、「高度回遊性魚類（カツオ・マグロ類）の管理」と「違法・無報告・無規則（IUU）漁業対策」を推進できる人材を育成する。
- ✓ 食料安全保障への対応のため、「養殖振興」にも注力し、水産物の安定的供給に寄与するとともに、海洋の水産資源に対する漁獲圧力を軽減する。同時に養殖に起因する環境負荷の軽減にも配慮する。
- ✓ より多くの魚を獲ることなく水産資源のもたらず経済的便益を最大化するために、伝統的に水産資源を様々な形で活用してきた我が国の強みを生かした、生産から消費までを包括的に俯瞰した「（ポストハーベストロスの削減を含む）バリューチェーン開発」を民間連携により推進する。
- ✓ 同時に、貧困、ジェンダー、栄養等の課題解決で水産業の役割を強化する。

以上